

自然に学ぶ暮らし まとめ

筆者の主張

少なくなってきた地球の資源を守るため、私たちは資源の利用のしかたを見直すと同時に新しい暮らし方を考えていかなければなりません。そこで大事なのが、

「自然そのものから学ぶ」ということです。

人間以外の生き物は、自然の仕組みをうまく利用しながら生きています。これを私たちの生活にも応用できるのではないのでしょうか。

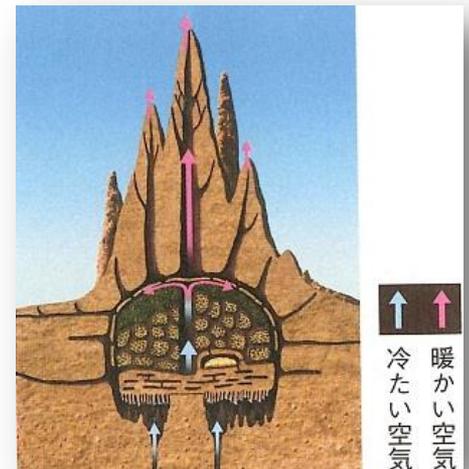
問い

自然の仕組みをうまく利用するとは、
どのようなことでしょうか。

シロアリの巣に学んだ 空気調節の仕組み

温度調節の仕組み

サバンナ地帯でも巣の中の温度を30度に保たれるのは、巣にあるトンネルに秘密があります。トンネルの中を空気がめぐり、巣の中の温度を調節しているのです。

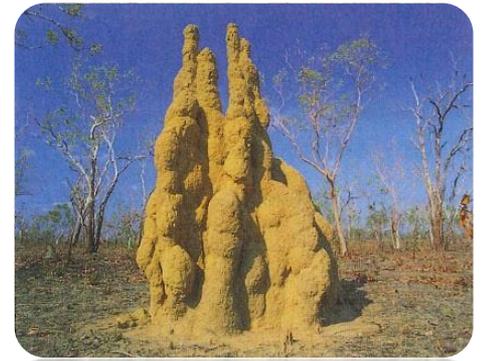


シロアリの巣に学んだ 空気調節の仕組み

湿度調節の仕組み

シロアリの巣を作っている土には、目に見えない小さい穴が無数に空いていて、穴が呼吸するように湿度を調節しています。

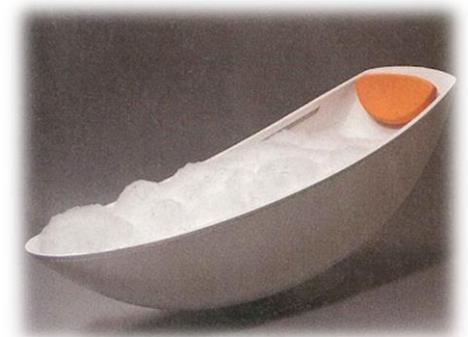
小さな穴をこわさないように土を固め、かべやゆかを作る技術が開発されています。このような素材を使った家は湿気の多い日本でも、エアコンを使わずに湿度を調節することが可能なのです。



生き物のあわの使い方に 学んだおふろの開発

あわのすばらしい働き

- ・ 空気の層によって熱をにがさないというあわの性質を利用して、気温の変化から身を守る。
 - ・ 自分で作ったあわに、表面が縮もうとするあわの性質を利用して卵をくっつける。
- これらの働きを、おふろに応用するのです。
少ない水量で済むおふろが実用化されれば、
限りある水を大切に使うことになるでしょう。

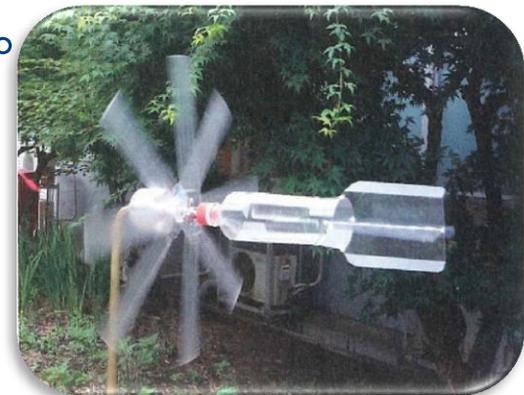


自然の仕組みに学んで エネルギーそのものを作り出す



トンボの羽には凹凸があり、この間に空気のうずができます。このうずが外側の空気を運ぶので、トンボは

少しの風でも飛ぶことができます。この仕組みを使って、小さな風力発電機ができました。



筆者の主張

今の生活の在り方を問い直し、自然から学ぶことで、新しい暮らし方が見えてきています。

自然に学び、新しい暮らしの在り方を考えていくこと。
それこそがこれからの私たちに求められる社会の
えがき方なのです。